俺たちは繋ぎみたいなもの 未来を描きながら 親子で頑張る

新妻（にいつま） 泰（やすし）・泰朋（やすとも）

居酒屋いふ、民宿新妻荘 経営

昭和34年（1959）、浪江町生まれ。
高校卒業後上京し、料理人修業。25年間東京で料理の仕事をし、
2003年にUターン。姉と妹が営んでいた喫茶店を改装し「居酒屋いふ」と
「民宿新妻荘」をスタートした。原発事故により6年間、避難生活を送りつつも
帰郷できる日を待ち続け、避難指示解除とともに東京で料理の仕事をしていた
長男の泰朋さんも合流して営業再開。

震災当日は年度末の金曜。宴会準備で忙しくしていました。
避難指示が出た時も「すぐかえれっぺ」くらいの気持ちで
ちょこっと避難と思ったら6年。今は笑い話だけどね。防護服着て入れたのも
だいぶたってから。先が見えない中、あっちこっち転々としながらも
帰ることだけ考えて準備してました。早く浪江に帰りたいっていう親父の願いは
叶（かな）わなかったけど、納骨は故郷でできたし、実家が津波で流されたけど、
また家を持てた。街灯一つなかったまちに灯りをともせたって感じの6年だったね。
東京で生まれ育った泰朋にとって浪江は故郷でも何でもないけど、
「一人じゃできないから手伝ってくれ」って言ったら来てくれて。
「浪江でまた酒が飲めるとは思わなかった」「いふに来ると町のみんなに会えて
うれしい」ってお客さんが言ってくれるじゃない。それには本人もやりがいを
感じてくれてる。ここは空気も風も違うしね。今は1割くらいしか戻ってない
まちだけど、新しく住んでくれる人たちもいるし、何より戻ってきた町民は
みんな生き生きしていて、浪江はやっぱり良いよ。俺たちは繋（つな）ぎみたいなものだから、
広島や長崎のように復興する未来を描きながら親子で頑張っていきます。

浪江町民憩いの場として親しまれる「居酒屋いふ」。
避難先から訪れる町民も多い